



i・ホーム たつか 所長

間宵 賢

MAYOI SATORU

1974年 柏崎市出身

2022年 i・ホーム たつか 開設

今年5月、宿泊機能付きデイサービス施設「i・ホーム たつか」が開所した。

こちらは、建築資材などを販売する株式会社イシザカの福祉事業部 アイ・ケアーズが運営する事業所の一つ。2015年に開設した、機能訓練に特化した通所施設「シニアフィットネスひよし」に次ぐ。

i・ホーム たつかは、元々、バリアフリー設備のあった一軒家を改修し、自宅で過ごすような環境の中、少人数に対応した設定で一人一人に細やかな介護サービスの提供を行うことを目指している。

施設内は利用者が囲らnderける部屋やバリアフリーの浴室を備え、宿泊用に用意された和室2室、洋室3室はすべて個室で、利用者は気兼ねなく過ごすことができる。急な宿泊やショートステイ、30日の連泊にも対応できるというのも特長になっている。

i・ホーム たつかで対応できるデイサービスの一日の定員は10名。少人数のため、利用者は自宅で過ごすように寛いだり、散歩やドライブをしたり、料理をすることもあるという。スタッフが一人一人の希望を聞き、やりたいことに合わせてメニューを提案してくれる。また、大きな施設では

ゆっくりと入ることができないお風呂も、ここでは一人ずつ、のぼせない程度に好きなだけ湯船につかることも可能だという。

「第2の我が家のように楽しみを持って施設にきていただきたい」と話すのは、i・ホーム たつかの所長を務める、間宵 賢さん。間宵さんが介護の仕事をしたのは、大切な祖母が認知症になったことがきっかけだったという。

間宵さんは両親が共働きだったこともあって、小さなころから祖母が面倒を見てくれた。その祖母が認知症になったことで、会社務めの傍ら29歳の時にホームヘルパー2級の資格を取得した。自分が施設で働きながら、その施設で祖母の面倒をみたいと思い、30歳の時に務めていた会社を退職。介護の世界へ飛び込んだという経歴を持つ。

その後、間宵さんは、特別養護老人ホームやグループホームなど、入所型施設に17年勤務して様々な経験を積み、新しく開設される通所型施設への転職を決めたと話す。

間宵さんが力を入れているのは認知症ケア。これまで専門家のアドバイス受け、実践で積み上げてきた認知症ケアのノウハウを通所型の施設にも生かしていきたいと奮闘中だ。「自分たちが目指しているケアでその人が少しでも以前の自分に戻ることができたり、穏やかな気持ちになれるよう、自分たちが力になればと思っています」と間宵さんは笑顔を見せた。



お問い合わせ

i・ホーム たつか

柏崎市田塚3-5-32

☎0257-41-5895 (FAX 0257-41-6152)

営業 9時～16時

*施設の見学等は電話にてご連絡をお願いします